

表紙について 「たんとうチューリップまつり」

今や但馬に春を告げる一大イベントとなった、たんとうチューリップまつりは、平成4年、球根生産者が各々で栽培していた畑を1か所に集め、花を摘み取るまでの間、地元の方に色鮮やかなチューリップを楽しんでもらおうとささやかに始まりました。

その後、平成6年の「但馬の祭典」の一環で、ジャンボ花壇に赤と黄のチューリップで日本列島を描いたことをきっかけに、毎年、その時々々の世相やトレンドを図柄(フラワーアート)に反映させています。

今年のフラワーアートは、飼い主とともに世界的に有名になった愛犬でした。

フラワーアートとして使う球根の種類や色が多様になるにつれ、それを目当てに訪れる観光客が増加し、まつりの規模は徐々に大きくなり、今日に至っています。

生産部分の球根は機械で植え付けますが、フラワーアート部分は、絵柄や植え付ける球根の色彩が複雑なため、図面引きを含めすべて手作業で行っていて、今年で32回目を数えます。

チューリップまつりが終わる頃には、早速、来年のフラワーアートを楽しみにされる声が聞こえていました。

(農業委員 早水 博子)



全国農業新聞を購読してみませんか!

農業の最新情報を提供

週刊(毎週金曜日発行) 月700円 (送料、消費税込)

*お申し込みは

農業委員会事務局または、
地元の農業委員・推進委員
まで

編集後記

私が住まう神鍋高原は、「UFO・神鍋神社」のキーワードで、この春からいよいよ全国区となった。北は北海道、南は沖縄から多くの来訪者が絶えない。経済効果も右肩上がり…。恐るべき「SNS」である。

それはさておき、昨年からの「令和の米騒動」はコメ政策の根本にまで波及し、未だに「迷走」しているが、今年には生産者米価が高くなる由、生産者には嬉しい秋になりそうだ。「米を作る人が増えている」という情報も聞かされている。「米騒動」を機に遊休農地が水田に蘇る…。そんな時代に戻るなら農地を守る立場からは「米騒動」もありがたい。

今年も出穂期、穂揃え期を経て、収穫の秋を迎える。「黄金色の稲穂が実り、良質の米が穫れ、生産者利益は増加し、消費者への安定供給も確保される…」そんな秋になることを願わずにはいられない。

今号も多くの皆様のご協力により「たより」を発行することができました。誠に「ありがた山の寒がらす」にございます。

(編集委員長 和藤 達也)



農委だより第61号は私たちが担当しました。

後列左から 吉岡委員、高尾委員、早水委員、
桑田委員、西委員
前列左から 瀧下委員、和藤委員、霜澤委員、
原委員



環境に優しいベジタブルインキで印刷しています。

本紙掲載の写真・イメージフォト・イラストは許諾を得て掲載しており、無断転載を禁じます。